

## ■ 背景

この手紙は聖書にあるパウロの手紙の中で、最も短い書物です。パウロは、聖書の中に13巻の手紙を書き記しましたが、その内の最後に収録されています。前の方の9巻は各地域の教会宛に送られました。そして、ピレモンを含む後ろの4巻は個人宛の手紙です。

個人宛の手紙には、テモテへの手紙が2巻とテトスへの手紙、ピレモンへの手紙があります。これらは牧会者テモテとテトスを励まし、助けるための手紙でした。しかし、“ピレモンへの手紙”だけは、受取人のために書かれたものではなく、オネシモという人のために書かれました。

## ■ 登場人物

### (1) 使徒パウロ

昔はクリスチャンを迫害する人でした。しかし、十字架で死んで復活したイエス様に出会い、イエス様を信じるようになりました。それから、パウロは使徒と選ばれ、イエス・キリストの福音を熱心に宣べ伝えています。

### (2) ピレモン (オネシモの主人)

パウロからイエス・キリストの福音を聞き、クリスチャンになりました。熱心なクリスチャンで、コロサイ教会の主だったメンバーの一人です。裕福な家で奴隷を持っていました。

### (3) オネシモ (ピレモンの奴隷)

奴隷の身分ですが、主人であるピレモンの家から逃げ去っていました。オネシモは逃亡中にパウロに出会い、クリスチャンになりました。それから、厳しい罰をも覚悟した上で主人の元に戻ります。

## ■ メッセージのポイント

パウロはピレモンに、奴隷のオネシモに関する4つのことを教えています。

- (1) 「オネシモが回心してクリスチャンになった」ことを教えました。オネシモは、以前は役に立たない者でしたが、イエス様を信じて、今は新しい人間になりました。
- (2) 「オネシモの逃亡事件の背後には、神様の導きと摂理があった」ことを教えました。神様は、オネシモの失敗や過ちさえも、益に変えてくださいました。
- (3) 「オネシモはもはや奴隷ではなく、愛すべき兄弟である」ことを教えました。身分の違いに関係なく、唯一の主イエス・キリストに属する兄弟になりました。
- (4) 「オネシモの負債よりも、もっと大きな負債がピレモンにある」ことを教えました。オネシモがピレモンに負っている負債より、ピレモンがパウロに負っている負債が大きかったのです。